

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： ナノスケールの電気化学イメージング技術の創成

2. 個人研究者名

高橋 康史（金沢大学ナノ生命科学研究所 教授）

3. 事後評価結果

走査型プローブ顕微鏡を基軸として、当初掲げた目標（触媒材料と担体との界面やエッジでの反応性の違い等の観察）を達成できた。計測技術の高度化およびそれらの適用など、高いレベルの研究が実施されたと判断する。領域内共同研究に積極的で、自身の研究のみならず、他の研究者らの研究発展にも寄与した点は高く評価できる。

自身の高度計測技術を様々な反応系に適用するスタイルが、研究の効果的な進め方として有効であることは間違いない。得られた成果には有用かつ興味深いものも多かったため、それらを定性的な理解に留めることなく、反応起源の究明など、もう一步進んだ研究展開が今後期待される。

計測技術そのものや、それを用いて得られた反応に関する知見は、非常に高いレベルにあり、科学的、工学的な波及効果が期待できる。論文やプレス発表などの成果公表にも積極的であった点も評価できる。今後、創発的研究支援事業において、研究を発展させていくことを期待している。